



小菅 優 (ピアノ) YU KOSUGE, *Piano*

高度なテクニックと美しい音色、深い楽曲理解で最も注目を浴びているピアニストの一人。9歳より演奏活動を開始し、2005年ニューヨークのカーネギーホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタルデビューを行い、大成功を収めた。

これまでにドミトリエフ、デュトワ、小澤、ノリントン、オラモ、ノットらの指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、BBC響、NDRエルプフィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響、フランス放送響、スイス・ロマン管などと共演。2010年ザルツブルク音楽祭で、ポゴレリッチの代役としてヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演。12年には紀尾井シンフォニエッタ(指揮:T.フィッシャー)のアメリカ・ツアー、またシェレンベルガー指揮カメラータ・ザルツブルクの日本ツアーに参加しモーツァルトのピアノ協奏曲全8曲を共演。13年には服部譲二指揮ウィーン室内管と共演、ウィーン・デビュー。また10年より15年まで、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行った。さらに現在はソロだけでなく室内楽や歌曲伴奏を含むベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組んでいる。

録音は、ソニーから発売している最新盤のライアン・ウィグルスワース指揮 BBC交響楽団による『藤倉大:ピアノ協奏曲<インパルス>&WHIM/ラヴェル:ピアノ協奏曲ト長調』をはじめ数多い。

第13回新日鉄音楽賞、2004年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。2017年から4年にわたり、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにしたリサイタル・シリーズ『Four Elements』を開催し好評を博した。

Ticket Information

Vol.1 「開花」 2023年3月23日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

料金: (全席指定) 一般¥6,000 学生¥3,000 好評発売中

※学生券はカジモト・イープラスのみの取扱い

カジモト・イープラス 050-3185-6728 ※オペレーター(10:00~18:00)対応。

<http://kajimotoeplus.com/> ホームページからもお申込みいただけます

●チケットぴあ <https://t.pia.jp> (Pコード 232-530) ●e+ (イープラス) <https://eplus.jp/> ●東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

小菅優のために書かれた藤倉大「インパルス」の超絶技巧
ラヴェル最晩年のかがやきを刻んだ「ト長調の協奏曲」の洒脱

Sony Music Japan International

小菅 優 (好評発売中)
藤倉大:ピアノ協奏曲第3番「インパルス」
/WHIM
ラヴェル: ピアノ協奏曲ト長調

【演奏】小菅 優(ピアノ)、ライアン・ウィグルスワース指揮 BBC交響楽団
【録音】2021年11月 ロンドン(セッション録音)

定価 ¥3,300 (税抜価格 ¥3,000)
ハイブリッド・ディスク ● SICX10016
(Multi-5ch) STEREO / Multi-ch

Hi-Res Audio DSD2.8 & 192kHz/24bit
ハイレゾ同時配信

YU KOSUGE
BBC Symphony Orchestra
Ryan Wigglesworth

Dai Fujikura
WHIM Piano Concerto No. 3 / WHIM
Maurice Ravel
Concerto pour Piano et Orchestre

ソニー・ミュージックからはひさしぶりのソロ・リリースとなるピアニスト、小菅優の協奏曲アルバムです。小菅の協奏曲録音はおよそ10年ぶり。藤倉大のピアノ協奏曲第3番「インパルス」は、モンテカルロ・フィル、読売日本交響楽団とスイス・ロマン管弦楽団の共同委嘱作品で、小菅優に献呈されました。3つのオーケストラの初演全てにおいて小菅優はソロを務め、大きな話題となったものです。同じ藤倉大の「WHIM」は、「インパルス」の日本初演時のリハーサル中に、藤倉大と指揮者の山田和樹に「カデンツァを聞いてほしい」と言って小菅優が弾いてみせたことから藤倉が思いつき、カデンツァパートだけをソロ・ピアノ作品として独立して出版することにしたというユニークな出自を持つ小品。カップリングとなるラヴェルの名作「ピアノ協奏曲ト長調」とともにバックを務めるのはイギリスの俊英ライアン・ウィグルスワース指揮する名門BBC交響楽団。2021年に行われた最新セッション録音です。

ご来場の皆様に安心してお聴きいただくため、当公演では新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防、拡散防止に細心の注意を払い、様々な対応策を講じた上で公演を実施いたします。

- お車でお越しのお客様は東京オペラシティビル 駐車場料金の1時間割引制度がご利用頂けます。
- やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 団体料金の設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。
- 未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

KAJIMOTO

〒104-0061 東京都中央区銀座6-4-1
東海道銀座ビル5階
<http://www.kajimotomusic.com/>

YouTube “kajimotomusic” で検索！

@kajimoto_News

@kajimotomusic

主催:KAJIMOTO

協力:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

KAJIMOTO

小菅 優 “ソナタ・シリーズ”

Yu Kosuge “Sonata Series”



モーツァルトやベートーヴェンなど、古典派のピアノ・ソナタはピアニストにとって必ず通る道だと思いますが、ソナタの歴史を眺めていると、バロックから現代まで、こんなにまで画期的な変化を成し遂げ、色とりどりのものがあるのかと改めて感心させられます。

これまで私はベートーヴェンの全ピアノ・ソナタ・シリーズ、そして印象派や国民楽派などのレパートリーを含めたFour Elements のシリーズを行ってきました。
それらを経て、今度はソナタというテーマに基づき、様々な時代を歩む作曲家の限らない世界に挑戦したいと思います。

若さと意欲に溢れるものを紹介し(第1回)、“幻想”という自由な構成と想像力を楽しみ(第2回)、“変奏”の複雑にして、一つのテーマというところから生まれる多彩なアイディアに触れ(第3回)、単一楽章で一つの大きなストーリーを語る革命的な道のりを歩み(第4回)、そして巨匠たちの晩年のこの上ない深遠な世界(第5回)でその旅を締めくくりたいと思います。

今私は40歳へと向かっていますが、そこを通りすぎたとき、音楽家としての成長において確実に得られるに違いないものを目指しています。

その中で、シューベルトのソナタは大きなゴールの一つです。何故なら、これほどまでに人間の心の奥深くまで探る旅は他にないからです。
闇、悲しみ、孤独、その深淵の世界の先には必ず美しいものもあり、その共存にはこの世界の哲学があると思うのです。

ソナタという一つのジャンルから、限りなく多彩で冒険的な音楽と出会い、そしてその奥深い世界を皆さまと探る5公演を、楽しくも実りのあるシリーズにしたいと思います。

小菅 優

Yu Kosuge

Vol.1 「開花」 2023年3月23日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

どことなく不器用な実験を試みながらも、これから巨匠へと成長するのを垣間見せる作曲家たちの進むような感情は、この時期でしか表せない瑞々しさに溢れる。10代の頃の私はずっと未熟だったが、それでもこの多感な時の忘れがたい経験は心の底にいつまでもうずくまっている。

J.S.バッハ: ソナタ ニ長調 BWV963
ベートーヴェン: 選帝侯ソナタ第2番 ヘ短調 WoO47-2
プロコフィエフ: ピアノ・ソナタ第1番 ヘ短調 op. 1
ブラームス: ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 op. 5

Vol.2 「夢・幻想」 2023年11月頃 予定

19世紀では裕福な家庭に育った子は大人になる前に旅に出されらしい。そこで若者は様々な初めての人生経験をする。良き思い出からは幸福に満ちた幻想が生まれる。
そして苦難に満ちた生い立ちを乗り越え、凸凹した人生の道に悩まされると、想像力に縋(すが)ることもある。人間の想像力は限りない。遠い人が身近に感じたり、険しい現実から空想の世界へと逃れることもある。音楽はそのような夢を見せてくれる。

メンデルスゾーン: 幻想曲 嬰ヘ短調「スコットランド・ソナタ」op. 28
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 op. 27-2「月光」
シューベルト: ピアノ・ソナタ第18番 ト長調 D894「幻想」

Vol.3 「愛・変容」 2024年5月頃 予定

人は経験によって変わっていく…基盤となる一つのテーマからときには悲しく、ときには激しく、ときには戯れるような様々な表情に音楽がどんどん変化して行く様子はまるで私たち生き物のようだ。たくさんの姿に変わっても、真の姿は変わらず、当初の自分に戻ってくることもある。そして死後の世界があるとしたら、人間は、魂は、どのような姿に変容するのか。

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調 op. 109
矢代秋雄: ピアノ・ソナタ
シューマン: ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 op. 14

Vol.4 「神秘・魅惑」 2025年1月頃 予定

形式がもっと自由になることによって、発想も自由になってくる。一つの出来事に集中しても、その多彩さによって広大さは失われず、長い詩のような世界がそこにはある。
人間は白と黒で説明できるような生き物ではない。善は悪と共存し、人間は悪魔の誘惑に負けることもある。官能、神秘、エクスタシーの魅惑へと音楽が誘う。

スクリャービン: ピアノ・ソナタ第9番 op.68「黒ミサ」
藤倉大: ピアノ・ソナタ(委嘱初演)
ベルク: ピアノ・ソナタ op. 1
リスト: ピアノ・ソナタ 口短調

Vol.5 「黄昏」 2025年10月頃 予定

死が近づいてくると何を考えるのか、私にはまだ想像つかない。しかし音楽からは、なんだか眩しい光が見えてくるというか、全てを認めて、許しと暖かみに包まれるようなそんな幸福感を感じる、影や暗闇と同時に。そんな不可思議な世界に、作曲家達は辿り着いた。それまでの旅があったからこそ。

モーツァルト: ピアノ・ソナタ第18番 ニ長調 K. 576
ハイドン: ピアノ・ソナタ第61番 ニ長調 Hob. XVI:51
ウェーバー: ピアノ・ソナタ第4番 ホ短調 op. 70
シューベルト: ピアノ・ソナタ第21番 変口長調 D960